

# 新聞掲載

奄美新聞

R6.8.6

## 人口減少問題やジェンダーも

### 奄美市中学生 11人が当局へ質問 ひかり議会

奄美市内の中学生が市議会一般質問を疑似体験する「ひかり議会」が5日、市役所の市議会議場であった。市内11校の代表14人が参加。議長、司会、書記を除く11人が市議会議員となつて登壇。人口減少対策やジェンダーレス、自然保護、通学路の安全対策など市政の課題を幅広く取り上げ、当局へ鋭い質問を投げ掛けた。



将来の奄美市を担う子どもたちに、市の現状や未来を考え、郷土を愛する心を育て、議会の仕組みや市の現状に対する理解を深めるとともに、今後の学校生活及び生徒会活動などをより良くするため、の態度を育てることを目的に、市教育委員会が主催、10回目の開催となった。

大山皇成さん（笠利3年）は「市として人

口減少及び少子高齢化に対してどのような対策をしているか」と質問。当局は「市としても一番の課題であり、将来の推定人口を上回

る」とし、「子育てしやすい環境、移住及び定住環境、仕事環境の三つの環境づくりに向けた事業を計画している」と答弁した。

柳幸太郎さん（東城3年）は「LGBTQ（性的少数者）に配慮した、制服を導入する予定はあるか」と質問。当局は「制服は、学校関係者からの意見を踏まえ、校長が決めることになっている」とし、「市内でも検討を始めている学校がある。意

見を出し合い、議論を深めてほしい」と答弁した。「のほか、環境問題や観光、土曜授業などの質問が相次いだ。

意見交換では、市政壇した、大山さんは「みんな考えたことが質問でき、しつかりした答えももらえた。市長以外の多くの人の顔が見られて良かった」。

食料自給や人手不足対策などについて質問した、荒田結心さん（小宿3年）は「貴重な経験ができてうれしい。市政にも興味を持つことができた」と話した。

議長を務めた、立石楽人さん（赤木名3年）は「本番は緊張したが議会を進めること